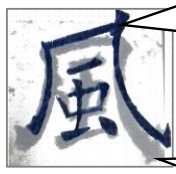
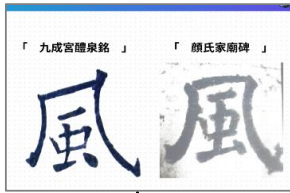


Canvaのホワイトボード機能のキャンバス上に、「九成宮醜泉銘」や「顔氏家廟碑」の画像を並べたり、重ね合わせたりしている様子。



〈濃い文字〉
=上に重ねる古典の
画像

〈薄い文字(透明度50%)〉
=下に置く古典の画像

活用場面

一斉学習

教師による教材の提示

個別学習

個に応じた学習

思考を深める学習

協働学習

発表や話し合い

協働での意見整理

活用した機器等

Chromebook

活用したアプリ等

Google Classroom
Canvaのホワイトボード機能
カメラ機能

学習のねらい

『漢字の書』の古典鑑賞において、複数の古典作品や古典作品と自身の臨書作品を重ね合わせることで、造形的な特徴(線質・横画の方向・字形・構成・余白・筆勢など)の違いに気付けるようになる。

学習の流れ

導入

特徴が異なる2つの古典作品に注目し、それらの画像を重ね合わせ、造形的な特徴などの違いを可視化する。線質・字形・横画の方向などに着目して、比較した古典作品の造形的な特徴をワークシートに記述する。



興味や関心を高める

展開

- ①【協働】自身で見つけた造形的な特徴を他者と共有し、古典作品の特徴について理解を深める。
- ② 他者と発見した古典作品の特徴を意識しながら、古典作品を臨書し、臨書作品を撮影する。
- ③ 背景透過・透明化した古典作品と自身の臨書作品を重ね合わせ、「どのような違いがあるか」に気付く。
- ④【個人】線質・字形・横画の方向などに着目して、古典作品と自身の臨書作品との相違を見つけ、ワークシートに記述する。
- ⑤【協働】重ね合わせたものをペアで共有し、相手の「再現できている点」や「改善点」などを、付箋機能を活用して記入する。
- ⑥自身の気付きとペアからもらった意見を基にして、具体的な改善策をまとめ、改善策を生かして再度、古典作品を臨書する。



互いの考えを比較する



思考して問い続ける



協働して課題解決する

まとめ

分析前と分析・修正後の臨書作品を比較して、気付いたことをワークシートに記述する。

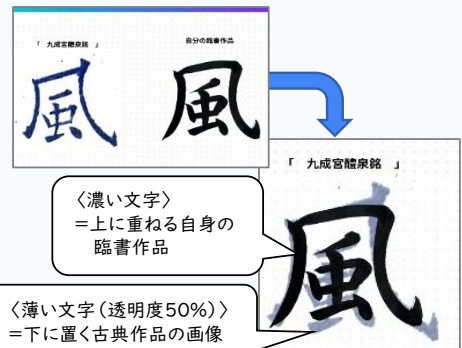


振り返って次へつなげる

ここでICTを活用!

・Canvaのホワイトボード機能のキャンバス上に、比較する古典作品の画像を並べる。比較する画像どうしは、背景透過機能を使って、文字だけを抽出する。抽出した画像については、画像編集の際、下に置く文字の「透明度」を50%前後に調整する。一方で、上に重ねる文字はそのままの状態にし、それらを正確に重ね合わせる。

・自身の臨書作品をカメラ機能で撮影したうえで、その画像を同様の操作により、古典作品と自身の臨書作品との相違を可視化することにも活用できる。



活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

- ・一度めの臨書後、ワークシートに書かれた内容には、「なんとなく似ていない」や「バランスが悪い」といった曖昧なものが多かったが、まとめの際に書かれた振り返りでは、「横画どうしの余白の大きさが均等ではない」や「直線的に書いたつもりだったけど、古典作品の上に重ね合わせてみると、そもそも線質が表現できていなかった」などのように、字形や線質などの分析についての具体的な記述に変わった。
- ・Canvaのオーバーレイ機能は、書道における「観察する力」を養うためのサポートツールとして活用できる。アナログで伝統的な「臨書」という活動に、デジタルツールによる「検証・分析」を融合させることで、生徒一人ひとりが自身の課題を見つけることができ、生徒の制作意欲の向上にもつながる。